



# 国労西日本

国労西日本本部

NO. 297

発行責任者 森田 文一  
編集責任者 片岡 有宏

国労西日本HP



国労西日本 検索

## 次世代に国労運動を継承していこう 労働条件改善に向け全職場から！



### 第三四回定期西日本本部大会

## 安全で安心できる鉄道輸送の確立

## 組織拡大に全力をあげよう

国労西日本本部は九月二五日、国労大阪会館において第三四回定期西日本本部大会（書面）を開催し、この一年間の闘いの総括を行い、安全輸送の確立、労働条件の改善、組織拡大、二二春闘等の諸課題について今後一年間の闘う方針を確立しました。大会は、職場・地域での様々な問題、新採問題をはじめとする組織拡大に対する取り組み、春闘における意思統一の取り組み、地域との共闘した闘いの報告など活発な議論が行われました。

大会は、中野執行副委員長の司会で開会されました。代議員31名中29名の出席委任届、執行部10名中9名、会計委員2名中2名の出席で大会が成立し、議長団には、議長に近畿地方本部選出の江口代議員、副議長に同じく近畿地方本部選出の東代議員が選出されました。



江口代議員（議長） 東代議員（副議長）

その後、森田委員長のあいさつ、経過報告、協約・協定の締結、二〇二〇年度運動方針、決算・予算の承認がありました。ストライキ権投票では、満場一致で採択された。大会宣言が読み上げ、最後に森田委員長の団結ガンバローで終了した。

これからの医療の進歩を見据え、「生きるためのがん保険」を新しくします。

**NEW/ 生きるためのがん保険 Days1**

アフラックはがん保険契約件数 No.1

アフラック 東京第二法人営業部

〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3階  
TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

### 国労西日本本部

### 森田執行委員長挨拶要旨



国労組織と運動を次の世代に継承、発展するため、組織拡大を最大の課題として、全力をあげて取り組みを進めてきました。拡大の特徴として加入した仲間がさらに新しい仲間に加わり、声掛け拡大が進んでいることです。職場活動を活性化させることは、組織強化・拡大において欠かすことのできない活動です。職場のあらゆる活動を組織拡大に結び付ける運動として全組合員が組織拡大運動に総決起することを要請します。

政治情勢について  
菅政権が発足し、「自助、共助、公助」を前面に自己責任に基づく「新自由主義」を露骨に促進させようとしています。国民の命と生活を守るため菅新政権がその役割を果たすことが求められています。解散総選挙が近いとも言われています。野党共闘をさらに発展させ、コロナ禍で破綻した「新自由主義路線」の暴走を続ける菅自公政権を終わらせ、憲法に基づく平和と民主主義擁護の政治、人間らしく働ける労働のルール、家計や中小企業の懐を温め、内需拡大を進めるため「ルールある経済社会」を構築し国民生活が豊かになる新しい政治をめざして奮闘することが求められています。

JR西日本では、「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022」がスタートし、三年目を迎えました。業務の委託化、外注化施策がすすめられ、教育技術継承の不足、職場での安全教育の徹底が十分に行われず、コミュニケーション不足による事故が今もなお続いている状況にあります。ワンマン運転の拡大、遠隔MVなど非対面による駅での販売体制等による人減らし「合理化」が押し進められ、運転士、車掌の負担が重くなっています。引き続き議論を行いながら安全輸送確立に向けた闘いにかかっています。

西日本会社は、コスト削減の一環として「期末手当の一部見直し」を提案してきました。西日本本部は、労使関係の信頼関係を揺るがすものであると厳重に抗議を行い、利益剰余金の一部を取りくずしてでも社員の生活を守るため会社として努力すべきであることを強く主張してきました。「社員の皆さんの生活設計等も重要である」との会社表明を最大限履行させることを今後の交渉と運動の柱とすることを確認し、苦渋の選択ではあるが「期末手当で見直し」



# 第34回定期大会発言要旨①

## 【山口雅幸代議員：北陸地本】

支社は、黒部宇奈月温泉駅などを出札窓口廃止、4両以下ワンマンを導入。駅の無人化、ワンマン化拡大を許さず、国の支援策を求める要請行動の取り組みが重要である。

支社は、貨物会社社員の出席を口頭で拒否してきた。他会社組合員も経小に出席できるように、協約の交渉を要請する。

## 【笹山美津男代議員：北陸地本】

青年部の要求アンケート調査の取組みで、対象者全ての他組合員から協力を頂いた。回答では、「支給されて有難い」「額が小さく期待外れだった」「期待していない」と3通りの意見がありました。全ての職場からも一人の仲間を迎える運動の強化を図っていくことが重要。

## 【斉藤道也代議員：北陸地本】

21年春闘の闘いで、雇用の確保を第一に、社員とその家族の命と暮らしを守るように、企業の社会的責任を果たすようにしていただきたい。シニア社員、契約社員等の労働条件改善の取り組み強化をしていただきたい。精勤手当の支給額は、社員並みの支給額を支払うように協約・協定を結んでいただきたい。

## 【芦田 祥徳代議員：近畿地本】

運転士で、乗務準備時間が足りない。体温の測定・アルコール検知・持ち物管理・掲示版の確認・乗務票の作成等とも10分では出来ません。準備時間の見直しを求めていきたい。車掌で、運転適性検査で落ちて駅

業務になった方もおられます。何回もチャンスをおあげて欲しい。

## 【安東 陽一代議員：近畿地本】

21春闘も今年同様の制約される運動になるかもしれませんが、全組合員と他労組も巻き込んだ運動で勝利しよう。

平和で安心して暮らせる日本にするためにも、広範な国民・労働者と共に政治革新を実現させる運動に全力を上げましょう。

## 【江口 芳生代議員：近畿地本】

車両系統における業務区分および検査体系の見直しを実施しているが、新世代車両への置換えを軸とした検査周期・項目の見直しによる検修費・人件費の削減が狙いである。会社は安全は確保するというが、人員削減や外注化では安全が守れないことは明白だ。

「ウエストエクスプレス銀河」の改造工事において、団体交渉も開催せずに9月から一部直営施工とした。組合軽視・無視の姿勢を示しており、それが準備不足やつめの甘さに繋がっているのではないか。

## 【松尾 修代議員：近畿地本】

21春闘においては創意工夫した取り組みと意思統一をしていく必要が大切です。これまで社員の努力によってため込んだ内部留保の活用で、コロナ禍であっても会社の社会的責任を果たさる必要があります。

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、ゆっくり話す機会も無くなっていきます。厳しい状況だからこ

そ組織拡大が必要だと改めて思いました。決してあきらめず、粘り強く訴え続け、組織拡大につなげていきたい。

## 【石田 尚之代議員：近畿地本】

20年春闘は、他労組組合員を巻き込んだ運動として春闘署名を展開し、251名で、国労の4倍を超える他労組組合員から集約しています。21年春闘において、要求の満額回答で生活改善を勝ち取るためにも、ストライキを背景に闘うことを要請いたします。

大阪貨物分会において、2名を仲間に迎えることができました。行動していけば必ず光が見えることに確信を持って、組織拡大運動を展開していきます。

## 【河野 宏幸代議員：近畿地本】

「感染の疑いのあるすべての社員にPCRの受診、その費用は会社が負担し、休業補償は100%実施」を早急に会社に認めさせるべきだと考えます。

契約社員の青年が国労に加入されました。組合員の日頃の繋がりがからの成果であります。職場でのおかしらという声を要求にし、引き続き組織の拡大に向け全力で、粘り強くやり切らなければなりません。

## 【島田 茂久代議員：近畿地本】

書面審議では大会の役割を果たせないと考えます。せめてオンラインでの開催をすべきだった。

駅では、みどりの窓口廃止や無人化が進められ、また、ホームでの転落事故が多発している。利用者の安全とサービスが切り捨てられています。そして、急速にJR西日本交通サービスへの委託化が進んでいます。業務委託化による人件費削減で要員

合理化は明白です。駅の安全・サービスを守るため、委託化に対しては反対の立場で運動を進め全力で奮闘するものです。

## 【西澤宗司代議員：近畿地本】

今回の昇職試験で国労の受験者からC等級合格者が出ました。これは昇職試験において、組合差別が完全に無くなったことを意味する大きな一歩だと受け止めています。しかし、基本給が低いために、1等級発令を受けても基本給最低額に約2万円届かない基本給となり、会社は制度の移行時に3年かけて賃金の移行措置を行うとしました。職場で調査し、改善に向けて声を上げて運動を作ることが大切であると考えます。

青年組合員の基礎知識の向上と他労組との学習交流を目的に「青年向け学習会」を開催しました。参加者からは「繰り返し同じ内容で学習会をしてほしい」との意見がありました。

## 【東幹男代議員：近畿地本】

感染症対策などで「感染した場合、感染の疑い・恐れがある労働者」の100%賃金補償を求めます。PCR検査の受検の拡充と検査費用の全額会社負担を求めます。

駅窓口無人化・窓口時間帯の縮小、委託化などありとあらゆる合理化施策を矢継ぎ早に実施してきている。近畿地本は、交渉と合わせて駅頭での宣伝行動を準備している。交渉の強化と運動で、駅の労働者を激励し、利用者へ合理化の問題点をアピールしていく。

## 【藤原浩二代議員：近畿地本】

乗務員が事故を起こした場合の再発防止教育について、組合員が2年前に起こしたミスに対して、一部の線区(桜井線)行路が外されています。

現場長裁量を規制したはずの再発防止教育、国労が規定化した内容が反故にされている。一部の線区外しを解消させる様に頂きたい。

## 【山下幸博代議員：近畿地本】

鳴野駅では45件もの隙間転落事故が発生している。会社に抜本的な安全対策を求め、引き続き職場・地域での運動の強化をはかっていく。

来春闘についてはすべての職場の団結で、ストライキで闘うことを求めるものである。

## 【吉岡とし子代議員：近畿地本】

コロナ疑い患者受け入れ病棟を開設した。看護師1名がコロナウイルスに感染。看護師6名が濃厚接触者に指定され、PCR検査が施行された。全員PCR検査を行うことを要望し、100%の賃金保証を望む。

救急患者を増加させる方向で曜日指定なく2次救急受け入れを病院が開始した。救急患者受け入れを進めるにあたって、外来救急対応は看護師一人体制でなく複数体制とする

ること、もしくは救急受け入れ対応に管理当直を入れるなど要望してきたい。

## 【山脇浩志代議員：近畿地本】

西日本会社から年間臨給の見直しについて提案されました。社員から手当の削減がされることにに対し不安の声が多く出されています。全社員が納得できる内容となるよう、全組合員が全力で奮闘しなければならぬ。利益剰余金はどのような条件下で活用するのか、明らかにさせるべきだ。

4月に業務区分の見直しがされ一部の業務が委託化されましたが、更なる業務区分の見直しと交番検査の見直しが出されています。委託ありきではなく、問題があれば直営に引き戻すことも含め対策するよう会社に求めることが重要となる。

## 【若崎幹仁代議員：近畿地本】

会社はそもそも新規採用者問題について疑義が生じていないとはつきりと言明し、かみ合わない中での交渉もあり、西労組への情報漏洩についてもあくまで噂であると逃げる体制を終始した。組織拡大の必要性を全機関で認識しなければならぬ。

駅の販売体制の見直し等々安全サービスの低下が横暴している。利用者の立場に立った鉄道と働き続けられる職場の構築が必要で有り「駅のありべき姿」の提言を進めるため西労組の若手との交流を進め実現する。工務職場では、熱中症が多発している。熱中症を出さないためには、作業時間の短縮・中止などが必要と

## 【吉岡とし子代議員：近畿地本】

年末手当について会社は内部留保金やあらゆる手段を行えば支払いは可能で有り、断固として反対し闘って欲しい。